

8月22・23日

# 日本共産党福島県議会議員団 小名浜東港、福島第一原子力発電所を調査

## ◆小名浜東港調査・8月22日

22日は、小名浜港を視察。県港湾建設事務所にて説明を受けたのち、船に乗船し海上からも調査しました。

小名浜東港は、共産党県議団などの指摘で当初計画から5分の1に縮小されたとはいえ50haに730億円かけてつくる計画で、1個数億円もするケーソンを海中に沈め埠頭を造る工事が進められています。



## 「沖待ち」「大型化」理由に税金つぎ込む



最近また「小名浜港の能力不足で、船が沖待ち状況にあるので、人工島が必要」などと言われています。

小名浜港には、1号埠頭の観光物産館「いわきららミュージアム」や2号埠頭の「アクアマリンふくしま」、石炭や鋼材の貨物船、木材などのコンテナ船を扱う大剣埠頭まで9つの埠頭があります。

共産党県議団が問題にしているのは、1～2号埠頭の前の海を埋め立てるポートアイランド・「東港」計画です。今回海上からの視察で、締め切り工事（ケーソン埋め立て）がだいぶ進んでいるのがはっきり見えてきました。

県の説明では、「石炭船の沖待ち問題や船の大型化」を理由にあげましたが、造成「理由」はだいぶ変化し、理由はあとからつけたものであり、「具体的に数字をあげよ」と質問すると答えられません。

## 「人工島」よりも現港の整備促進を



港湾労働者との意見交換や、組合役員の案内で港内現場をみせてもらったりする中で、県の言い分はほとんどくつがえされました。

荷役機械をもっと使いやすいものにかえれば、荷揚げのピッチが格段にアップし、石炭の野積み場所がないとの県の言い分についても、照明設置したり、作業道路を一本整備すれば、労働者の安全も確保しつつ既存の港で充分やっていけるものです。

## ◆福島第一原子力発電所調査・8月23日

23日は、高橋千鶴子衆院議員、党県議団（神山悦子団長）、長谷部淳前県議、いわき市議団、石田大熊町議、渡部南相馬市議ら17人が、東京電力福島第一原子力発電所では、中越沖地震受け、その教訓がどう生かされるのかをつかむために調査に入りました。

## 地元住民の安全と安心確保を

原発調査に先立ち、立地町の大熊、双葉両町役場で副町長と懇談を行い、立地町としての要望などを受けました。その中では、住民の安全・安心の確保のための情報の開示、災害時の避難道路の整備などの強い要望が出されました。

## 中越沖地震からなにをくみとるか

原発の調査に入るにあたって、掌型登録、ID登録、金属探知機など4重5重のチェックが行われ、構内での写真撮影はいっさいダメという情報開示とはかけ離れた姿勢を示しました。

東電側の説明では、7月23日に化学消防車が1台配置されたとしていますが、南横浜火発から持ってきた1989年型のもので、稼働させるに必要な人員は、兼任で5人を確保しているとしていますが、大災害の際に本当に兼任で機能を発揮できるか明確ではありません。断層について陸上、海域を再調査するとしていますが、ボーリングや音波による調査で、実際に掘り起こして地層を見るトレンチ調査はしないものです。

また、他の電力会社は津波対策を行っているが、東電では何らの対策もとらないとしていることへの明確な説明はありませんでした。



原子炉建屋内で（8月23日）

